

## II. 日本における「単一民族神話」の歴史的起源と変遷過程(その4) —日本の「国際化」と外国人労働者の流入—

浅野慎一(神戸大学)

### 【アメリカの相対的地位低下と日本の「国際化」】

1970年代～、アメリカの相対的地位低下：

ベトナム戦争敗戦、ドルショック（変動相場制）、石油ショック。

ベトナム戦争終結、東南アジア諸国で社会主義政権樹立。

→1975～、インドシナ難民（ボート・ピープル）の漂着・来日。

日本政府＝一時的受け入れ→国内外世論→1978年、定住許可。

日本の高度経済成長の国際的基盤：喪失。

戦争「特需」、「1\$=360円」の固定相場、対米従属下での低価格原油・原材料確保：破綻・終焉。

& 高度経済成長・「世界第二の経済大国」化。

円高→輸出主導型経済成長の破綻。日米・日欧の貿易摩擦。

→日本企業：海外進出・多国籍化を模索：日本社会の「国際化」。

### 【高度経済成長の破綻と外国人労働力の導入】

日本国内：国内生産・輸出主導型高度経済成長の条件も喪失。

過疎・過密問題、

公害反対の住民運動・賃上げを求める労働運動・地価高騰→日本国内での工業投資の限界効率低下。

農村労働力の枯渇→都市出身・労働者2代目の増加：「勤勉と忍耐」「和の精神」の希薄化。

高齢化・女性の社会進出の進展→労働者の多様化。同質性の喪失。

国内農村的な同質性に基礎をおく日本型企业社会＝早晚維持しえなくなることは明白。

→1980年代以降、アジア人労働者の日本への出稼急増＝日本企業の雇用急増。

日本政府・資本の側も、外国人労働者の段階的受け入れに向け、徐々に政策転換を開始。

### 【外国人労働者の多様な流入形態・ルート】

①1980年代：観光・興業などの名目で入国→実際には単純労働に従事 or 超過滞在して就労。

a) フィリピン・韓国の女性：興業ビザ。飲食・サービス業。「ジャパゆきさん」。

b) バングラディッシュ・パキスタン・イランの男性：観光ビザ等。建設業・製造業。

→不法残留・不法就労：二重の違法（無権利）状態。中間搾取・強制労働・売春強要等。

不法滞在者の子供：無国籍。

②技術研修生・技能実習生

1981年、外国人研修生制度（＝国際貢献・国際協力）。

1990年、出入国管理法改正・規制緩和。

1993年、技能実習実習制度。研修生期間終了→技能実習生として継続（滞在期間、1～3年延長）。

1990年代、EPAによる外国人看護師・介護福祉士候補者受け入れ。

実地研修と就労の明確な区別困難→実質的な就労・雇用。

転職の自由なし、最低賃金以下の「賃金」、「労働」時間も無制限。

失踪・逃亡頻発（2018年で9000人強）。2010年、技能実習制度に一本化。

2019年、「特定技能」の在留資格創設（＝技能実習の期間延長）。

介護・農業・建設等、14分野で「外国人労働者」の受け入れ拡大。

2017年、27万4000人強。

### ③留学生・就学生

1983年、中曽根内閣「留学生10万人計画」（＝国際貢献・国際交流）

留学生（日本語学校：就学生）にアルバイト許可（週20～28時間）。

2008年、「留学生30万人計画」。2019年、31万人・目標達成。

経済格差、貧困な奨学金制度・高学費。法定限度内のアルバイトで学費・生活費の調達は困難。  
悪質な日本語学校・大学。

### ④日系人

1990年、日本人海外移民の子孫の「里帰り」の便宜：3世（とその家族）：職種制限なく就労許可。

#### 1) 南米日系人。

戦前～戦後高度経済成長期、日本人が南米に移民。

BUT 1980年代、ブラジルの経済破綻・ハイパーインフレ（月間100%以上）

「デカセギ」。群馬県・栃木県・茨城県・愛知県・静岡県・岐阜県・滋賀県。工場労働者。

2007年ピーク時で32万人。

#### 2) 中国日系人。

戦前、日本：中国東北地方に傀儡国家「満州国」建国。多数の日本人移民。

日本敗戦で難民化。多くは、戦後直後に「引き揚げ」

取り残された一部の日本人：「中国残留孤児／中国残留婦人」。

東西冷戦・日中国交断絶、日本への帰国不可能。（日本政府：遺棄）。

日中国交正常化（1972年）以降、日本に帰国（家族同伴・中国帰国者）。

BUT 日本政府：その後も帰国妨害政策。∴ 帰国大幅遅延。

∴ 多数の中国残留孤児・残留婦人：日本への帰国を果たせぬまま、中国で死去。

中国で死去した残留孤児・残留婦人の子供・孫＝「日系人」（≠中国帰国者）。

\* 日系人の証明書売買・偽造も。

日系人の就労：合法。∴ 比較的、高賃金。→不況で「首きり」、技能実習生に代替。失業。  
永住権・定住権獲得。失業・貧困化、学齢の子供の不就学。

2019年文科省調査：外国籍の不就学児童：約2万人。在日外国籍学齢者の約16%。氷山の一角。

### ⑤密入国・「偽装結婚（?）」・不法滞在。

\* 日本で働く外国人労働者：約128万人（2017年）。

ベトナム・中国・フィリピン・ブラジル等。

製造業・農林漁業・サービス業：外国人労働者なしには成り立たず。

### 【戦後の「単一民族神話」の終焉】

日本政府・資本：「外国人の単純労働の禁止」「単一民族神話の維持」。

BUT 実際には様々な抜道（密入国等を除く）。劣悪な労働条件で外国人労働者を活用。

外国人労働者の増加→外国人差別・蔑視・排外主義の増幅。

「外国人労働者が来るから日本人の失業が増える？」。

NO! 外国人労働者：日本企業が低賃金労働力を必要。日本人と外国人の明白な賃金格差。

外国人労働者が来日しなければ、日本企業は一層海外進出 or 国際競争力喪失。

「不法化」：外国人労働者の賃金・労働条件の一層の引下げ→日本人労働者の労働条件も一層引下げ。

＝外国人の就労を不法とする法規制＝低賃金労働力を求める日本企業の利益を代弁。

∴ 不況になるほど外国人労働者が増加。

不法就労・不法雇用に対する罰則強化→1) 技能実習名目・政府「公認」タイプの増加。

2) 不法就労・雇用の一層の不可視化。

近未来：外国人労働者の減少。日本無視。出稼ぎ先としての中国の台頭。